

急性白血病治療後の生活の質に関する横断的研究のお知らせ

～2012年7月末で終了します～

国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍・造血幹細胞移植科 黒澤彩子

このたび平成23年8月より、がん研究開発費福田班「成人難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植療法の治療成績向上につながる基盤整備のための多施設共同研究」の一研究として、急性骨髄性白血病、および急性リンパ性白血病の治療後の生活の質（quality of life: QOL）を調査する研究を開始しております。

急性白血病に対する治療後のQOLの変化や社会生活の変化については、医師が移植後のQOLを評価した研究はいくつかありますが、患者さん自身が治療後のQOL評価を行ったデータは国内外でもまだ非常に少ない状況です。“疾患は治癒したけれど生活は100%もとには戻っていない”という状況がどれくらいあるのか、またどのような変化があり、どのようなことで患者さんが困っていらっしゃるのかを調査したいと以前より考えておりましたが、現在、患者会などを通して日本全国の急性白血病の患者さんに参加を呼び掛け始めております。

さらに多くの患者さんにこの研究について知っていただくために、全国の血液内科の先生方からも急性白血病の治療を経験された患者さん、もと患者さんへ、この研究についてお知らせいただけないかと思い、このたび本誌にスペースを頂くことをご許可いただきました。

対象は

- ◎急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病と診断され、治療を受けた方
- ◎現在20歳以上（治療時年齢の下限、また現在の年齢上限はありません）
- ◎入院中ではない
- ◎化学療法のみで治療を受けた患者さん、または移植を受けた患者さんです。

この研究では先生方にご調査をいただくことは一切ありません。また、この研究は疫学研究に関する倫理指針に則った形で国立がん研究センターの倫理審査委員会にて承認されており、各ご施設での倫理審査は不要です。患者さんにこの研究を知っていただくためにパンフレットをお渡しいただき、研究事務局あてにご連絡をいただいた患者さんへ改めて正式な説

明同意文書とアンケート一式を事務局よりお送りするという流れになります。

研究にご協力をいただけます先生方は、下記の福田または黒澤までご連絡いただけますと幸いです。案内パンフレットの送付、また研究の詳細をご案内させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科 Tel: 03-3542-2511

福田 隆浩 (tafukuda@ncc.go.jp)

黒澤 彩子 (skurosaw@ncc.go.jp)

当科ホームページでもこの研究について紹介しております ↓

http://www.ncc.go.jp/jp/ncch/clinic/stem_cell_transplantation_02.html